1．　調 査 報 告 概 要 表

作成日　平成21年　2月　4日

【評価実施概要】

事業所番号	4270202445
法人名	医療法人　愛健会　アイケン医院
事業所名	グループホームあいけん
所在地	長崎県佐世保市上本山町1092番地1 （電　話）0956-40-8522

評価機関名	特定非営利活動法人　　福祉総合評価機構
所在地	長崎市桜町５番３号　大同生命長崎ビル8階
訪問調査日	平成２１年　１月２１日

【情報提供票より】（平成２０年１２月１日事業所記入）

（１）組織概要

開設年月日	平成　１６年　１２月　１日		
ユニット数	２ ユニット	利用定員数計	18　人
職員数	15　人	常勤15人，　非常勤　人，　常勤換算 8.6人	

（２）建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート　造り
	3 階建ての　2.3 階部分

（３）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	35,000　円		その他の経費（月額）	12,000　円
敷　金	有（　円）		○無	
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（100,000円） 無		有りの場合 償却の有無	○有　／　無
食材料費	朝食	250　円	昼食	350　円
	夕食	400　円	おやつ	0　円
	または1日当たり	円		

（４）利用者の概要（　１２月　１日現在　）

利用者人数		18　名	男性	5 名	女性　13 名
要介護１		5　名	要介護２	5　名	
要介護３		4　名	要介護４	4　名	
要介護５		0　名	要支援２	0　名	
年齢	平均	84.4 歳	最低	67 歳	最高　97 歳

（５）協力医療機関

協力医療機関名	（医）愛健会アイケン医院、あずま歯科医院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームの運営理念には、利用者が家庭的な雰囲気で生活できるようにする、専門家による質の高いケアを追求する、地域住民と一体となって運営出来るよう努める、ということが掲げられており、職員一丸となって、ケアを行っている。特に専門家による質の高いケアについては、同じ法人内に医療機関、介護関連施設があり、横のつながりを最大限に活かしながら、健康状態やリハビリの状況など利用者について情報を共有し、実情に応じたきめ細かいサービスがなされている。母体法人はリハビリに力を入れており、スタッフ、設備とも充実している。またリハビリに訪れる地域住民と挨拶や言葉を交わしたりするなど交流している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4）
	一人ひとりのペースを大切にし、希望に沿って支援する項目については、改善計画書を作成し、利用者の意向を踏まえたレクレーションが行えるよう、パズル、編み物等、利用者が取り出しやすい場所におくなどの取り組みを行っている。運営に関する家族意見の反映については、面会時など積極的に話をし、広報誌でも呼びかけている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）
	自己評価は全職員で行われ、気づきやケアの改善に取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）
	外部評価の結果報告と改善に向けた具体的な取り組みについて討議されたほか、火災など災害が起こった場合についてホームとしてどのような対応をとるのかということについて討議され、消防訓練、災害時の対応について見直しを行い、地域との連携を確認した。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）
	家族会や面会時の声掛などで意見、要望を汲み取る対応を行っている。また、ご意見箱を設置し広報誌などで設置場所をアピールしている。入居の際には重要事項説明書にて苦情・相談受付窓口を明確にし、第三者委員や行政機関の相談窓口があることの説明が行われている。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）
	地域の文化祭への作品の出展、ウォークラリー等地域のイベントに積極的に参加している。買い物の際にはレジ会計時の配慮や、車いすの方などにも買い物しやすいようお店に協力をしてもらっている。

2．　評　価　結　果　（　詳　細　）

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初から地域に根ざした運営に重点を置き、地域密着型サービスの役割を踏まえた理念になっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員採用時には理念について必ず理解してもらい、日々のケアにおいても常に意識を持ってもらえるよう、会議の場などで話し合っている。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域で行われているウォークラリーや文化祭、秋祭りなどの行事に積極的に参加している。利用者は地域の方が多く、併設のリハビリ施設等を利用している地域の方と挨拶を交わしたり、会話をしたりして交流を図っている。自治会等には加入しておらず今のところ地域活動には参加していない。	○	地域との交流を事業所にとって必要な時だけ行うのではなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるように事業所が地域の活動に参加し、役割を担っていくような取り組みを期待したい。
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員で行われており、改善点を検討している。また評価を受けての改善点などについても、全職員で話し合いが行われ、改善にむけた具体的な取り組みについて話し合いが行われている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はほぼ２ヶ月に一回開催され、メンバーは、包括支援センター職員、町内会長、民生委員、利用者、家族会代表等で構成されている。外部評価の結果報告や、日々のケアについての質疑応答などさまざまな議題について話合いがなされている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	法人を通じて市から受託している介護教室の開催を行う際に情報交換を行ったりしている。また運営推進会議の議事録を市の担当部署に送付し、意見をもらっている。		
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月担当スタッフが写真入りのお便りを作成し、利用者の日々の様子を個別に報告している。遠方の家族で、なかなか面会に来れない場合には、電話等で様子などを知らせている。金銭管理の報告は毎月行われ、家族が来所された際には領収書などの確認を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時等職員に話しかけやすい雰囲気作りに努め意見を聞き出すようにしている。家族会を開催し、意見を求めるようにしているが、なかなか意見が出てこない状況である。重要事項説明書にて苦情受付の説明がされ、第三者委員に受け付けることも出来ると明記されているが、第三者委員についての情報が明示されていない。	○	家族会を開催しているが、意見等を皆の前ではなかなか言いにくいという状況であることも考えられるので、たとえば職員は席を外し、家族のみで話し合える場などを作り、意見等をくみ出す工夫を行うことを期待したい。第三者委員については情報を明示することを期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動については、極力行わないようにしているが、重度化、終末期に向けた研修を兼ねて同法人内の医療機関に異動している職員がいる。新職員がケアにあたる場合は、いきなり担当としてケアにあたるのではなく、徐々に慣れてもらうように配慮している。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の「研修計画及び実績表」を作成し、職員に積極的に研修を受講するように働きかけている。また法人内部での研修も定期的に行われ、技術、知識の習得に努めている。受講内容はカンファレンス等で報告され共有されている。外部研修については業務時間内ではなく、職員が休日を利用して受講していることが多い。	○	休日の研修は個々人の都合により、時間が取れず参加できないということも考えられる。事業所としてもなかなか時間が取れない現状であるようだが、お互い話し合いの上、より研修を受けられる環境を整備して職員のレベルアップ、サービスの質の向上につなげて行くことを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加し、グループホーム同士の職員を対象としたテーマを決めての勉強会などを行い、質の向上をめざし取り組んでいる。また他のグループホームと風船バレーボール大会を開催し、利用者を含め職員同士の交流も行われている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 **１．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応**					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームの特徴として、同法人の居宅サービスを利用していた方がグループホームの利用を開始するというパターンが多いので、職員とはなじみの関係がある程度出来ているが、新たにサービス利用する場合においても家族や他施設からの情報提供書や生い立ちからどんな人生を歩んできたかなどの情報を家族から得ている。また見学等してもらい徐々になじめるようにしている。		
２．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	洗濯物たたみや、台拭きなど利用者が家で行っていたことをホームでしてもらっている。また職員は昔の季節の風習や植木、花の育て方、歌やどどいつなどさまざまなことを利用者に教わっている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
１．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントや家族からの情報を参考にしたり、利用者の話をよく聞くことや、表情、目の持って行き方などで希望や意思の把握に努めている。把握が困難な方に対しては、必ず職員全員で話し合い、何が本人本位なのかを検討している。		
２．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	利用者一人ひとりに担当職員がおり、日々の短期目標の評価やアセスメントを行い、その結果を検討し、法人のリハビリの先生や看護師の意見を取り入れながら作成している。本人の意向を最優先し、家族には面会時などに意見等を求めている。作成された介護計画は面会時に提示したり、送付したりして確認してもらい、返答・修正にも対応している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は３ヶ月に１回見直しが行われている。短期目標については、職員が１日２回評価を行い、状態に変化が生じた場合は随時の見直しが行われ、見直しされた介護計画は新しく作成されている。		
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて、帰宅時の支援や買い物時の注文取りなど柔軟に行っているほか、医療連携体制加算の指定を受けた事によって、看護師による健康チェックなど医療処置を受けながらの生活の継続支援を行えるようにしている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	サービス利用開始前より、ホーム併設の医療機関をかかりつけ医としていた利用者がほとんどであり、引きつづき受診支援を行っている。利用者、家族が別の病院受診を希望する場合は支援する体制にある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制に伴い、「重度化した場合における対応に係る指針」を整備し、看取りに関する考え方を家族に説明し同意を得ている。日々のケアのなかで利用者本人から看取りについて希望の発言が出た場合には記録をとるようにしている。また医師、本人、家族との間で重度化した場合について話し合いが行われ、方針の統一が図られている。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **１．その人らしい暮らしの支援** **（1）一人ひとりの尊重**					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の個人情報に関する書類は所定の場所で管理され、外部の人には見られないようにしている。また職員雇用の際には、守秘義務の誓約書を取っている。言葉かけは尊厳を持って行われ、居室に入る際も必ずノックして本人の了承を得ている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴時間や食事など、一応決められた時間はあるが、見たいテレビ番組があれば遅い時間でも見てもらったりするなど個々の時間の過ごし方や希望に応じて、利用者のペースに合わせるように支援している。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	日々のケアを行うなかで利用者の好き嫌いの把握をし、またアセスメントを行い嗜好調査している。また誕生日には利用者が食べたい物を用意するなど、食事を楽しんでもらうような支援を行っている。職員は同じものを食べ、利用者の食事のサポートを行っている。食事の準備、あとかたづけ等は利用者の出来る範囲で手伝ってもらっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の順番等は希望に合わせている。一番最初に入りたいなど希望が重なった場合は交代交替で希望に沿えるよう支援している。ゆず・菖蒲・バラなど季節にあわせた入浴剤などを用いて入浴を楽しめるようにしている。出来ることは自分で行ってもらい、本人の力の発揮につながる支援を行っている。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入所される際、自宅から書道道具など趣味の道具を持ってきてもらったり、アセスメントや家族からの生活歴の情報をもとに利用者の趣味、得意だったものを把握し、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節の行事で外出したり、天気がいい日は屋上で日なたぼっこをしたりしている。買い物や外食に出かけられるような支援を行っており、歩行困難な利用者には車いすを利用し外出支援を行っている。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ドアに鈴を付け、鈴の音でドアの開閉を察知する工夫をし、日中は鍵をかけないケアに取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年２回、日勤帯と夜勤帯を想定し、職員と利用者が参加する消防訓練を、地域の消防団の協力を得て一緒に行っている。災害時には地域の消防団等に協力してもらえるよう日頃から働きかけ運営推進会議の場などでも協力をお願いしている。		
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量は個別にチエック表に記入され、状態の変化を把握できるようにしている。栄養バランスについては調理員が１日１６００カロリーを目標に献立を組み立て、バランスのよい栄養補給が行えるよう考慮している。		
２．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり **（1）居心地のよい環境づくり**					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や食堂などの共有空間には季節の花々や季節の行事、例えばお正月やクリスマスなどの装飾で季節感を取り入れている。音や光については利用者が不快にならないよう利用者の希望を聞いたり、汲み取ったりして常に配慮されている。また、風呂場や要所の手摺り設置など居心地よくすごせる工夫を行っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や仏壇、写真や装飾などこれまでの生活に使われていたなじみの物を持ち込んでもらい、配置も利用者の希望にあわせ居心地よく過ごせるような工夫をしている。		

※ ▒ は、重点項目。